

シャッター式ホームタンク



ウィルタンク 200 ・ 490



willtrust
株式会社ウィルトラスト

従来のホームタンクの特徴



従来型タイプ



従来型タイプ+防油堤

- ①通常のオイルタンクの構成はタンクと脚のみであり、工事現場では流出対策として別途、防油堤工事が必要である。
- ②通常のオイルタンクはパッケージで包まれておらず防油堤を設置しても雨水・雪が溜まる。
- ③パイプ状の脚を装備しているが接地面積が小さいため束石などに固定することで初めて転倒防止できる構造である。
- ④オイルタンクには施錠装置がないため油の盗難の可能性がある。
- ⑤発電機等で直結する場合リターンパイプが装備していないため戻りは通気管にホースを接続しなければならない。
- ⑥吊フックが装着されていないためナイロンスリングでの積み卸しが必要となり安定感がない。
- ⑦被覆銅管の切断等のイタズラのリスクが発生する。



ウィルタンク 200・490 の外部の特徴

①防犯性その1・・・シャッター式により軽油・灯油の盗難を回避し配管の接続・整備もラクラク

③両面表示（灯油・軽油）が可能裏表プレート（抜き差し式）

軽油専用

灯油専用

②移動性・・・設置の利便性・・・吊フック・固定用アイボルトを装着することにより運搬・設置が容易

※ウィルタンク200の場合の油量計確認窓はシャッターの付属してます。（背面に明り窓付）



背面用明り窓



④油量計確認用の網入ガラス窓（左右あり）



⑤機器との接続性・・・戻り口、送油口の2WAY



⑥防犯性その2・・・専用配管カバーを装着することにより被覆銅管の切断によるイタズラ防止（※オプション）



⑦耐震性・・・ロケット式の延長脚で耐震性をさらに強化（※オプション）



注）外部のウィルタンク200と490の仕様の違いは油量計確認窓の位置が違っただけでその他仕様は同じです。

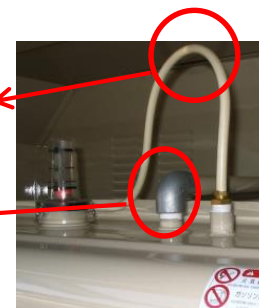




ウィルタンク 200・490 の内部の特徴



①機器との接続性②・・・リターンパイプを装着



②積雪対策・・・通気管を背面に移動



③残油抜きバルブ（スイング式スィベル付）

④残油検知装置・表示器（※オプション）



⑤外部パイプとの接続口・・・2WAY



⑥防油堤が内蔵

注）ウィルタンク200と490の内部の仕様の違いはタンク缶体と防油堤の大きさは違いますが基本は同じです。

⑦防油堤用ドレン抜きバルブ

